

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	22-320	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
The Relationship between Binge Drinking and Binge Eating in Adolescence and Youth: A Systematic Review and Meta-Analysis. 思春期および青年期における暴飲暴食の関係：系統的レビューとメタアナリシス。		
執筆者		
Sampedro-Piquero P, Zancada-Menéndez C, Bernabéu-Brotons E, Moreno-Fernández RD.		
掲載誌		
Int J Environ Res Public Health.2022 Dec 23;20(1):232. doi: 10.3390/ijerph20010232.		
キーワード		PMID
青年期、アルコール、むちゃ飲み、むちゃ食い、感情的摂食、メタ分析		36612554
要 旨		
<p>思春期や青年期は、通常アルコール摂取が開始される重要な時期であり、特に暴飲暴食という形でアルコール摂取が開始される。近年、不安を和らげるため（感情的摂食）、あるいは衝動的な性格のために、不健康な食品に対する振るまい、暴飲暴食行動をとる青年や若者を見かけることが多くなっている。この問題は社会的、健康的に重要であるにもかかわらず、ほとんど研究されておらず、より予防的な研究を発展させる必要がある。本研究では、思春期から青年期にかけての暴飲暴食と摂食の関連を明らかにするために、暴飲暴食と摂食の関連と共起を評価することを目的としたメタアナリシス研究を行った。さまざまなオンラインデータベースで選択的な文献検索を行った。その結果、暴飲暴食と暴食の直接的な関連については、相関係数とオッズ比において、個別的ではあるが有意な結果が確認された。今後の研究では、これらの問題行動の背後にある共通の心理的背景や動機に焦点を当てる必要がある。</p>		